

第 40 回セミナー アウトブレイクセッション：高校

○石川先生

Classi による教材配布が始まった。

ログインに課題、電話による指導もあわせて。

若い先生の対応力、苦手な先生もうまくやれているか？⇒教員同士の助け合いが見られる

生徒の心身の健康を保つことを大切に。質問を工夫している。

高校の特性、選択科目がある

⇒教員の教材づくりの種類が多いことが大変。。

実習中心、学校設定科目についてどういう指示ができるか？

○中山先生（英語）

質問：classroom の活用。2 時間の中で授業をすることを始めた

G-suite の操作

オンラインの授業も学年により始まってきた。

1 学年 72 名を招待して実施した。

1 年生はオリ途中、授業開きできず今に至っている。

中間考査がせまっているなかで、オンラインでやるとき、どのあたりからどこから始めるのか？

皆さんは実際にどうされますか？

○吉田先生

高 1、2・3 年は実施の仕方は異なる

⇒1 組～5 組一緒にできるメリットがある

1 年生は顔合わせできていない・・・カリキュラムの優先度

オンラインは午前中のみ。全員はできないことは前提。午後は、それぞれの時間を使えるように設定する取組みを行っている。

○小澤先生（吉田高校）

1 年生はみんなパソコン持っている状態からスタート

先週から時間割どおりに授業ができている

教員はみんなめっちゃやっている。いいのをつくっている。

やってみると奇妙な興奮のなかにある。長期的に見たときどうか、はわからないが。

オンラインで総合、課題探究をしている。

2、3年生はパソコンがあるわけではないので、十分ではない。

オンラインで授業時間割通りしようとしている。

来週は携帯を持ち込ませて、オンラインの課題を解決する一週間で考えている。

教員のまじめさがわかる。

みんな目がわるくなる。

○吉田先生

平時とかわらない授業時間の取り組みをしている。

今後もつかえる、という目線で進めている。

○橋本先生（庄原致知・英語）

今回の遺産は教職員の絆が深まったこと。

教科担当教員で Line グループをつくりやりとりで進めている。

これまでお互いのことを知らなかったことが異常であった。本音と言えるようになった。

対面授業は無理、でもオンラインで同じように、も無理。では、生徒に与えられることは？

+専門性

第1弾で考えていること：好きな洋楽にあわせて体操してみたら、動画アップ。

購入している文法書など活用した動画づくり

気分転換のための英語絵本の読み聞かせ。

動画作成のスキルも上がってきた。

○小澤先生

近年、探究科がはじまった。

2 か月は SDG s に関するパワーポイントを使い教材提示、反応をみながら進めてきた。

ロングホームルームも活用。Youtube を使って、感想を書かせたりなども始めている。

やりとりのコメント。

○下前先生

社会科の取り組みについて。

Google Classroom で教材配信のみ。オンラインの必要あるだろうか？・・・。

板書のような PPT 資料+音声データのみ 解説を聞く。といったスタイル。

倫理は、解説プリンとデータ、+音声データ。で学習。

音声取り込みで聞くこともできるので、活用させている。

課題を出す、社会に関わるような問題、答えにたどり着くようなもの。(課題作りがポイントになるだろう。)